



～地域とともにある学校をめざして～

鯨コミ

R4 CS通信No.14 R4.11.30



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

全校読み聞かせ(西海小)・学校運営協議会委員学校訪問(舞戸小)・あじがさわジュニア県大会出場

11月4日(金)、西海小学校では、読み聞かせグループ「ピース」と「さざなみ」による全校読み聞かせがありました。

「ピース」は、舞戸小学校を中心に、「さざなみ」は、西海小学校を中心に活動していますが、今回は、合同で3つのお話を披露しました。

1つめの「まほうのかさ」は、ストーリーテリングという手法で、物語を使って子どもたちに大事なことを伝えていました。2つめの「ニャーゴ」は、ねことねずみの物語で、大型絵本を使ってお話を伝えていました。3つめの「アリとキリギリス」は、紙の人形劇で、舞台を工夫して設定し、役割分担しながら演じていました。

子どもたちは、どのお話にも興味・関心を示し、身を乗り出して聞き入っていました。特に、「アリとキリギリス」では、キリギリスのダンスに手拍子を合わせる等盛り上がりました。子どもたちは、どのお話もおもしろかったと満足していました。



11月22日(火)、舞戸小学校で、学校運営協議会委員による学校訪問がありました。初めに、各学級の授業参観を行いました。どの学年も学習規律が整い、集中して学習に取り組んでいました。

委員の皆さんからは、「元気よく、活発な授業が多い。」「授業に対して楽しく取り組んでいる。」「うまく言えない子に対して、みんなで助けてあげようとしている。」「高学年では、タブレットを使いこなしている。」等とお褒めの言葉をたくさんいただきました。

児童集会では、あったかさんキャンペーンで、友達の良いところをほめる取り組みを紹介し、学校中にあったかさんを広げようとしていました。

学校運営等についての説明では、校長先生が、「子どもの声を聴く」ことを教育実践の中心に据えることや「ふるさとを大切に思う子の育成」について、それぞれ具体例を挙げながら話しました。

委員の皆さんからは、先生方や家庭に校長先生の経営方針や考えが伝わり、子どもたちを良い方向に導いてほしいという感想がありました。



あじがさわジュニアミニバスクラブ男子が、この度の西北五予選会を勝ち抜き、県大会出場を決めました。2年連続の快挙です。

チームは、地域のコーチ陣の指導と保護者の支援により、選手12名(6年5名、3年1名、2年4名、1年2名)が抜群のチームワークを発揮して勝ち上がったそうです。県大会は12月17日、18日に青森マエダアリーナで行われます。

上位めざしてがんばってほしいですね。

